

第28回
くまもとアートポリス推進賞
KUMAMOTO
ARTPOLIS



熊本県土木部建築住宅局建築課

〒862-8570 熊本市中央区水前寺6-18-1

Tel.096-333-2537 Fax.096-384-9820



発行者: 熊本県
所属: 建築課
発行年度: 令和6年度(2024年度)

第28回「くまもとアートポリス推進賞」の選考を終えて

委員長 伊東 龍一

今年、第28回となるアートポリス推進賞には29作品の応募がありました。例年に比べてやや少なかったのですが、受賞作品をご覧いただければ、その質は例年にも増して高いということはお判りいただけると思います。

今年の審査員は昨年と同じく、青木淳氏、乾久美子氏、坂口美由紀氏、富田一哉氏、中川エリカ氏と伊東の6名でした。

一次審査（書類審査）では、事前に提出された作品に関する書類について、各審査員が点数をつけて集計した上で、作品1点1点について意見を述べて議論し、二次審査（現地審査）の対象作品を選びました。単に作品を選ぶだけでなく、書類審査では不明な点、確認したい点、建物を実見する際に見逃してはならない点、ヒヤリングで聞いておきたいことなどについて考えるところを述べ、審査員でそれを共有することを意識的に行いました。

二次審査では、実際に作品を見ることに加え、設計や施工関係者や施主等へのヒヤリングを実施し、そのあとの会議では一次審査同様、作品ごとに審査員全員が意見を述べた上で議論を交わして、最終的に賞に値する作品が選ばれました。

応募作品29点のうち、最終的にアートポリス推進賞とアートポリス推進賞選賞として残った作品は7作品で、アートポリス推進賞が「東海大学阿蘇くまもと臨空キャンパス」、「箱の家163（Y邸）」、「立野交流施設（立野駅）」の3作品、同選賞が「熊本保健科学大学 レストランピリア」、「酒蔵の片隅で角打ち」、「垂玉温泉 瀧日和」、「天然記念物布田川断層帯（谷川地区）見学施設」の4作品となりました。

住宅系の作品は応募数全体に対する割合としては決して少なくなかったのですが、このところ毎年複数受賞し

ていた住宅系作品が、今年は「箱の家163（Y邸）」の1件にとどまりました。また、常連といっても良い設計者の応募も今年は少なかったようにも思います。それに特別な理由があったわけではないようで、次回の応募を期待したいと思います。

また、熊本地震が発災した2016年から8年を経て、ようやく熊本地震からの復興に関連する作品が3作品（「東海大学阿蘇くまもと臨空キャンパス」・「垂玉温泉 瀧日和」・「天然記念物布田川断層帯（谷川地区）見学施設」）選ばれています。見事な復興をまずは喜ぶべきですが、たいへん時間がかかるものだと痛感しました。

令和6年は元旦に能登半島地震がおき、甚大な被害をもたらしました。その後、9月には大雨による被害が再び同地を襲いました。それでも石川県では未指定を含む文化財建造物に対して修理費や技術的指導をサポートする復興基金が立ち上がり、その際、熊本地震における熊本県の対応が大いに参考にされたと聞いています。

これは文化財建造物の話ですが、そもそも文化財の保存・活用の目的は「国民の文化的向上に資するとともに、世界文化の進歩に貢献すること」（文化財保護法）であり、アートポリス推進賞は「建築デザインに対する関心を高め、都市文化並びに建築文化の向上を図る」ことを意図していますので、目指すところに大差はありません。今回の受賞作品と受賞者は、歴史に育まれるべき文化財の種です。今年熊本でうまれた7つの種が無事に育ってゆくことを期待したいと思います。

最後になりましたが、今年も作品を応募して下さった皆様に厚く御礼を申し上げますと共に敬意を表します。また、二次審査においても説明や聞き取り調査に多くの方々にご協力いただきました。厚く御礼を申し上げます。



推進賞

東海大学阿蘇くまもと臨空キャンパス

熊本地震で被災した東海大学農学部に移転、再設計画。かつてのキャンパスが講義・実習・研究、また学科を超えた一体性を育んできたことを継承し、ロの字でコンパクトにまとまった2号館は、多くの研究室や講義室を抱えながらも、中央の中庭やそこにつながる外廊下、また、内側の廊下のところどころに設けられたコモンズなどにより、学科を超えた交流が生まれるきっかけを随所に設け一体感を生んでいる。同時に、中庭には多数の切れ目があり、内側に閉じているというよりは、周辺の施設へと意識がむく仕掛けも用意され、2号館を中心に実習棟や畜舎などが有機的に結びつくものとなっている。また、実験室を多く抱えた校舎として、将来的な実験機器の変更や、

用途変更に対応するフレキシビリティを確保するため、ロングスパン梁やコアブレースといった構造的な工夫が施されていた。総じて、実験系の大学施設の建築計画として合理性が感じられた。審査員から全体の意匠のトーンが工業的で農学部らしさがないという声も上がり、私も個人的にそのような印象を受けたが、もしかしたら農学というもの、すでにこうしたテクノロジー的なものへと変化してしまっているのかもしれない。その是非をここで判断する必要はないと思うが、設計者から農学というものに対するイメージをどう考えたかについては、もうすこし聞きたい気持ちでした。

（乾 久美子）

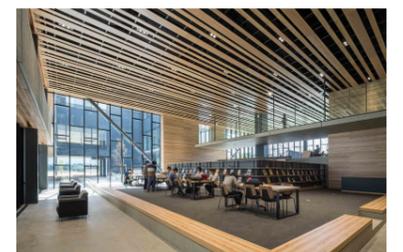
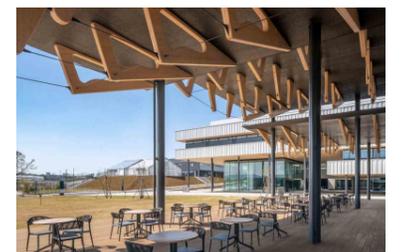


Photo by 株式会社川澄・小林研二写真事務所、中村 隆、長谷川 健太

事業主	学校法人東海大学
設計者	株式会社石本建築事務所
施工者	株式会社豊工務店 三井住友建設株式会社
所在地	上益城郡益城町杉堂871-12
竣工年月	令和5年（2023年）3月
用途	大学
構造	鉄骨造一部鉄筋コンクリート造
階数	地上3階建
敷地面積	110,550.06㎡
建築面積	17,183.12㎡
延べ面積	27,079.78㎡



配置図



推進賞 **箱の家163 (Y邸)**

箱の家163。163もの家をつくってきた住宅生成システムは、すでに名人芸の域に達している。通常、そのようなシステムは、ある意味で型として完結しており、そこに実際に住む人間・生活よりもルールが前面化してしまうことがある。それに対しこの家は、むしろ、施主と家がとてもよく混ざっていて、むしろ施主自身が自在に住みこなしていると言っていだろう。そのルールを乗り越え清々しい姿に、型を感じながらもむしろ解放感を覚え、審査員一同、感激した。普段と大きく印象が変わらない現れ方で耐震等級3を実現していることも驚きである。

施主は要望を伝えるだけでなく、設計のアイデアを出すことにも自分なりに参加したのだという。既存の円熟したシステムを活用しながら自分の家を考え、生成していくプロセスは、とても幸せなものであったに違いない。書類審査の際には砂利敷きだった前面道路側の庭には、大小様々な樹木が密植され、今後も時間をかけて新陳代謝を繰り返し、変化を予定なのだという。家の型が、施主が自由に生きることを下支えしている。住宅の設計に関わるすべての者が憧れる、とても理想的な状態ではないだろうか。

(中川エリカ)

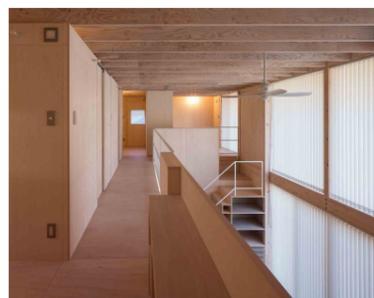
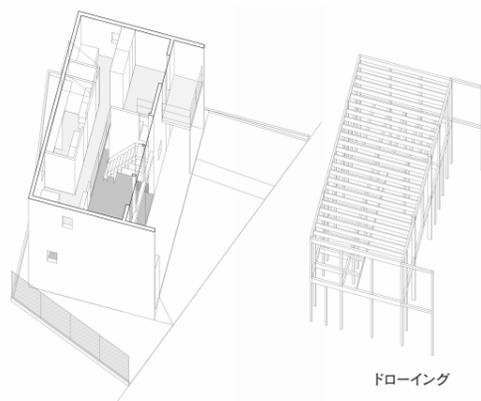


Photo by YASHIRO PHOTO OFFICE



ドローイング

事業主	匿名(個人)
設計者	株式会社難波和彦+界工作舎
施工者	株式会社オンサイト
所在地	菊池郡大津町
竣工年月	令和元年(2019年)7月
用途	一戸建ての住宅
構造	木造
階数	地上2階建
敷地面積	174.03㎡
建築面積	79.50㎡
延べ面積	103.48㎡



推進賞 **立野交流施設(立野駅)**

立野駅は阿蘇くじゅう国立公園内にあり、JR豊肥本線と南阿蘇鉄道の二つの路線が乗り入れる駅で、阿蘇の玄関口であり、地域の人たちだけでなく県内外の来訪者も数多く乗り降りする、無人駅でありながら賑わいのある駅である。建物は県産の木材が多用され、多くの部分を木造・木質化されていて、大自然の中にぬくもりのある雰囲気来訪者をあたたかく迎え入れてくれる。

熊本地震での甚大な被害を受けた立野地区のコミュニティの再生、南阿蘇鉄道の再生、そして南阿蘇村の活性化のための賑わい創出を目的とした施設として、広いテラスと駅前広場は、多彩なイベン

トを開催される交流の場として、地震からの復興に大きく寄与している。

また、2階の交流テラスをはじめ、JRと南阿蘇鉄道それぞれのホームなど、阿蘇の山々や風景、列車を眺めたり写真を撮影するのに適したスポット(視点場)が多く作られている工夫もこの駅の大きな魅力のひとつ。現地審査で訪れた日も県外からのたくさんの修学旅行生がトロッコ列車に乗り込み高森方面へ向かっていた。トロッコ列車から手を振る子どもたちにテラスで手を振り返す人々。ほんの数十分の間にあたたかな風景を見ることができた。

(坂口美由紀)



事業主	南阿蘇村
設計者	株式会社シメント
施工者	吉永・橋本特定建設工事共同企業体
所在地	阿蘇郡南阿蘇村大字立野1572番地13
竣工年月	令和5年(2023年)4月
用途	交流施設、駅舎
構造	鉄骨造一部木造
階数	地上2階建
敷地面積	1,566.87㎡
建築面積	743.98㎡
延べ面積	1,260.25㎡



配置図、1階平面図



2階平面図



推進賞選賞 熊本保健科学大学 レストラン ピリア

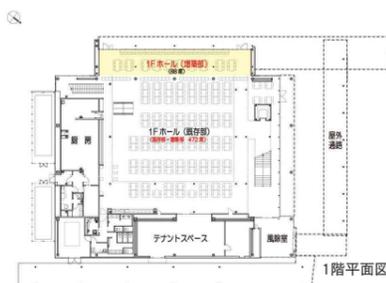
2002年に竣工した熊本保健科学大学一号館は、第9回くまもとアートポリス推進賞を受賞している。配置図で見れば、その巨大な円形平面形は強烈であるが、周回してみれば、むしろ取り巻く並木の方が目立つほどに、控えめな印象を与える建築である。玄関脇に配置された大きな容積を持たざるをえないアリーナでさえ、1階を巡る開口を低く抑え、ヒューマンスケールから逸脱しないよう配慮されていた。こうした厳密な幾何学形態への志向から窺える合理性とヒューマンスケールへの配慮の共存は、保健科学大学の基礎にある価値観をよく具体化していると思われる。今回のプロジェクトは、大学の正面ゲートに新しいデザインを与えることも含まれていて、それはこうした方向を継承するのではなく、むしろ大きな身振りに変容させるものである。この

正反対の価値観への改変は、議論の余地が残る。とはいえ、スポーツのため空間として設計された大容積空間を、さまざまな制約のなかで、居心地が求められるレストランへの改装は難易度の高い設計であり、それによく応えられている。既存の構造とは縁を切って、違和感なく増築部の構造が挿入されていることも特筆に値する。特に2階レベルに回廊の空間を挿入したことは、全体のスケール感を抑えることによく寄与しており、学生たちにも評判が良いようであり、推進賞選賞に相応しいものであると評価された。

(青木淳)



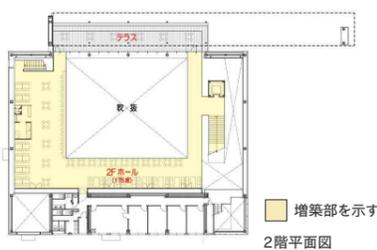
断面図



1階平面図

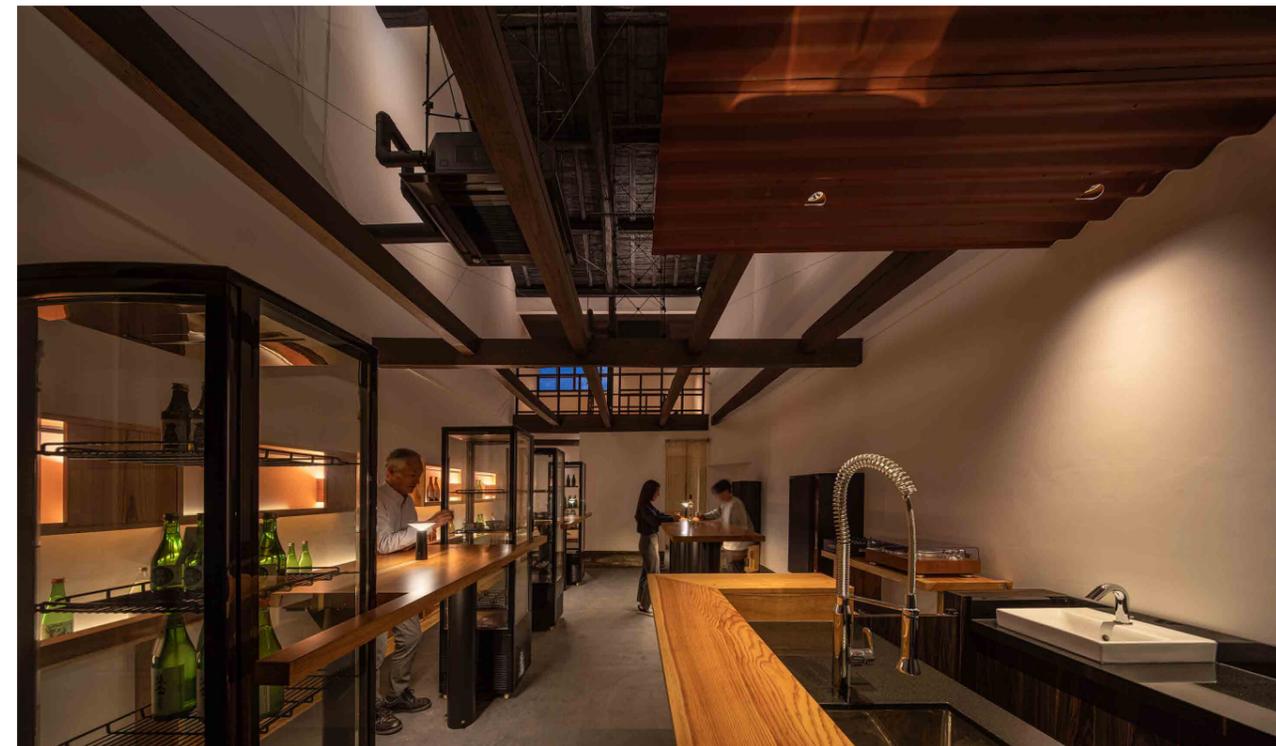


Photo by 上田新一郎/エスエス



2階平面図

事業主	学校法人銀杏学園 熊本保健科学大学
設計者	戸田建設株式会社一級建築士事務所
施工者	戸田建設株式会社九州支店
所在地	熊本市北区和泉町325
竣工年月	令和2年(2020年)8月
用途	大学(アリーナからレストランに改修)
構造	鉄骨造
階数	地上2階建
敷地面積	51,663.75㎡
建築面積	1,511.19㎡
延べ面積	1,960.56㎡



推進賞選賞 酒蔵の片隅で角打ち

豊前街道に沿った山鹿の歴史的な町並みのなか、それもこの土地を代表する酒造場の大型の町家が立ち並ぶ一角に建つ。元は大正時代の間口2間半ほどの町家で、これを活かしてお酒の試飲場、角打ちを楽しめる場をつくった。

1階正面には、明るいブルーの地に「清酒千代の園」のロゴをあしらった古い大戸を柱間に入れ、2階正面には杉玉をつる。内部は、本来あった二階の床板を奥の一部を除いて取り外して二階の大引や小屋組をそのまま残して高い吹き抜けの空間とし、また、一階後方から上がることができる、残された二階からは、古い手摺の向こうに吹き抜け全体を視野に納めることができ、開放感を生み出すことに貢献している。

また、一枚板のカウンター、敷地内にあった地元の石材・鍋田石を沓脱にする、キッチンカウンターの側面にむかし酒紋りで使用した布を張るなどで、現代的な角打ちの場に本物が醸し出すレトロ感を漂わせた。

この建物の背後には、これもまた歴史的建造物である土蔵造を活用した「酒造り史料館」がある。計画には表通りとこの史料館をつなぐ配慮があっても良かった。改修前の写真を見る限り、「残すこと」を考えても、それは可能だったように思う。

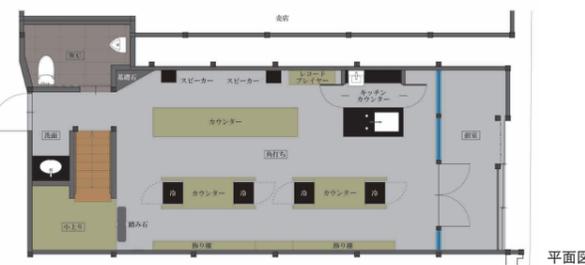
設計者は「残すこと」を強く意識しており、この計画の根本にそれがある。本来の町家もつ姿や、場合によっては復元も可能にする痕跡等が大きく失われないよう配慮している。重要なことである。

(伊東龍一)



Photo by Toshihisa Ishii

事業主	千代の園酒造株式会社
設計者	株式会社前原設計事務所 株式会社ZEN環境設計
施工者	株式会社本山建設
所在地	山鹿市山鹿1782
竣工年月	令和5年(2023年)10月
用途	飲食店
構造	木造
階数	地上2階建
敷地面積	26,500.00㎡
建築面積	54.46㎡
延べ面積	61.66㎡



平面図



推進賞選賞 **たるたま 垂玉温泉** **たきびより 瀧日和**

書類審査の際、審査員からは、2016年の地震による甚大な被害から復興した姿を見たいという声と、高低差のある特異な敷地における造成やランドスケープを現地で確認したいという声が上がっていた。現地審査では、地震と豪雨災害による大きな被害から這い上がり、復興後の再スタートを切っている姿を確認することができた。従来は宿泊客も受け入れる旅館であったが、現在は日帰り入浴のみであるという。審査の際にその理由を尋ねたところ、「日帰り入浴という選択は、もともと湯治場であった場所としての原点回帰である」というオーナーの言葉があり、震災復興を機に、これまでの歴史を評価しながら次の時代にあるべき姿を熟慮した上での決断であることが示さ

れた。大変力強く、印象的であった。一方、ランドスケープについては、熊本城とも近い印象を感じさせる既存の石垣が地震・豪雨の被害もなく、奇跡的に残っているのだが、その貴重な資源とはあまり関連なく、復興のための新築建物が配置されており、新旧が乖離した印象を受けた。長い歴史ある湯治場であるからこそ、地形がもたらす来歴を評価しながら、建築を足していくことができれば、より素晴らしいに違いない。プログラムにおける決断と同じように、この場所の歴史やこの場所独自の地形・ランドスケープを改めて評価することによって、より一層ここにしかない風景を生み出すことに期待したい。

(中川エリカ)



Photo by 平林克己

事業主 垂玉温泉 瀧日和
 設計者 堺武治建築事務所
 株式会社坂本達哉建築設計事務所
 株式会社Lives
 所在地 阿蘇郡南阿蘇村河陽2331
 竣工年月 令和3年(2021年)3月
 用途 飲食店、公衆浴場
 構造 木造
 階数 地上1階建
 敷地面積 8,081.08㎡
 建築面積 989.78㎡
 延べ面積 1,071.53㎡



配置図



推進賞選賞 **天然記念物布田川断層帯(谷川地区)見学施設**

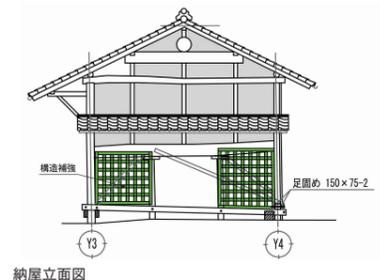
2016年4月16日未明、益城町の農村にあった民家はマグニチュード(M)7.3、震度7の熊本地震に見舞われた。庭先には2本の断層帯が現れ、納屋などの建物は傾き傷ついた。見学施設は、被災状況をできるだけ保存し、地震の記憶を後世に伝えるため益城町が整備した。設計では、断層や被災建物を保存するとともに、当時の暮らしぶりをとどめるよう配慮。断層を風雨などから保護する覆屋に側壁を設けず、柱の数も極力減らして以前の眺望を保ち、庭の樹木も可能な限り残すなどして日常生活が突然の地震で失われた恐怖と理不尽さを追体験できるよう考えられている。約1,700㎡の敷地には、かつて母屋のほか納屋2棟があり、南に広い庭が開けていた。解体された母屋の名残をとどめる玄関ポーチに立って庭に目を向けると、覆屋の柱に妨げられることなく田園の向こうに山並

みを望む美しい景色を眺めることができる。庭を見通す場所からは、約40mにわたって走る2本の断層がV字形に交差して隆起した様子を観察する視点が確保されている。隆起によってずれた水路も残され、地震のすさまじい破壊力をまざまざと物語る。今にも倒れそうな2棟の納屋は、杭や支柱、木の格子組などで補強され、かろうじて被災直後の姿を保っている。傾きの大きさや崩れた土壁を見ると、いつまで保存できるのかという懸念も感じる。地震から8年が経過し、記憶の風化が懸念される。被災直後の状況を生活感とともに現地で保存していく施設は重要性を増していこう。ただ、屋外の施設であり、断層や被災した建物がいつまで現状を保てるか案じられる。保存に向けた対策を継続的に講じてもらいたい。(富田一哉)

事業主 益城町
 設計者 株式会社アーバンデザインコンサルタント
 山王株式会社
 株式会社真輝
 株式会社坂澤建設
 長義建設株式会社
 所在地 上益城郡益城町大字福原字西平1770番1
 竣工年月 令和6年(2024年)4月
 用途 震災遺構の見学施設
 構造 骨組膜構造
 階数 地上1階建
 敷地面積 1,737.73㎡
 建築面積 649.94㎡
 延べ面積 681.34㎡



配置図



納屋立面図

くまもとアートポリス推進賞一覧

● 推進賞 ● 推進賞選賞

受賞施設一覧
詳細はこちら



第1回 1995年度

- 小国町立西里小学校
- 東陽村石匠館
- 八代広域行政事務組合消防本部庁舎
- 株式会社野田市兵衛商店流通団地営業所
- 清和物産館(四季のふるさと)
- 荒瀬ダムポートハウス
- 出田眼科病院
- 尚玄山荘

第2回 1996年度

- 社会福祉法人 慈愛園ノーマンホーム
- 阿蘇白水温泉「瑠璃」
- ふるさとセンターY・BOX

第3回 1997年度

- 久連子古代の里
- 養護老人ホーム八代市立保寿寮
- 水俣市営洗切団地
- 丸尾焼工房
- 人吉の舎II/平井邸
- 浮島周辺水辺公園

第4回 1998年度

- 老人保健施設 かかみ苑
- 熊本県信用保証協会八代支所
- HOUSE:H-M
- 水俣市保健センター・水俣市総合もやい直しセンター
- 古閑邸
- 聖母の丘
- 宮原町下宮はまどん公園

第5回 1999年度

- 水上村立湯山小学校
- 中央町総合交流ターミナル「石段の里 佐俣の湯」
- 植柳新町公民館(地域学習センター)
- シルワ・エッセ
- 50M-標の森美術館
- 宮崎耳鼻科
- 矢野邸

第6回 2000年度

- やつしろハーモニーホール
- 城南の舎
- 中央町福祉保健センター「湯の香苑」
- ネクステージビル
- 熊本YMCA 阿蘇キャンプメインホール
- セカンドサイト
- 霧の斎場

第7回 2001年度

- 荏原九州
- K.Residence
- つなぎ美術館
- 稗田の舎
- ガレリアのある舎
- chase
- キューネット社員寮「希翔館」

第8回 2002年度

- 久野邸
- 立田山野外保育センター「雑草の森」
- 八代の町屋
- いのうえデンタルクリニック
- 大野温泉センター

第9回 2003年度

- 熊本保健科学大学
- I-HOUSE
- 熊本市現代美術館
- UEDA.Residence

第10回 2004年度

- 九州新幹線 新水俣駅
- S.W.H
- 田迎の家
- 東海大学付属第二高等学校
- ひだまりのまち B4

第11回 2005年度

- k-house in 近見
- 高瀬蔵
- 3 Towers
- 美里町立中央小学校体育館
- 玉名温泉つかさの湯
- 堀田眼科医院

第12回 2006年度

- 阿蘇の舎
- nina Dental Clinic
- 西の久保公園
- "B"-studio
- 永田歯科

第13回 2007年度

- H-court
- 熊本学国大学14号館(60周年記念会館)
- 城下町の住宅
- 多良木町交流館石倉
- グリーン ツイード アンド カパニアアジア エンジニアリング センター
- Al mall
- コンバスポイント本社ビル

第14回 2008年度

- 障害者多機能型施設 高森寮
- B-house in 島崎
- ジャングルジムの家
- Chro-e#01(クロイー#01)
- ガーデンコートゆうかり
- 松木運輸株式会社
- しらさぎおさや
- 済生会熊本病院外来がん治療センター
- barn renovation

第15回 2009年度

- 畑の中の一軒家
- 川上酒店
- i-CUBE#01(アイキューブ#01)
- 光の森の住宅
- 桜木の家
- R-House in 梶尾
- YMCA赤水保育園
- 熊本市下通2・3・4番街アーケード

第16回 2010年度

- 道と暮らす家
- 天草文化交流館
- C-HOUSE
- 芦北町立佐敷小学校
- 百年遺伝子の門
- T-house in 高森

第17回 2011年度

- 熊本市医師会館・看護専門学校
- 高瀬
- 宮原邸
- 嘉島の家
- 田園住宅(篠崎邸)
- I-apartment
- 松の湯
- 矢部の家
- Shipな家

第18回 2012年度

- 行徳眼科
- 八代の家
- 護岸の家
- 器季家カフェ
- 阿蘇くまもと空港国内線ターミナルビル
- 小規模多機能型居宅介護ハイマートの郷
- ユウハウス
- House-Sim
- ±5° SEPPAN BOX

第19回 2013年度

- 大江の舎/親誼書房
- T邸
- 風と共に
- 中九州クボタ本社・物流センター
- 南阿蘇原眼科
- 光影Archive/長洲の家
- 坪井の家
- 渡邊総合内科クリニック/高森わたなべ薬局

第20回 2014年度

- 沼山津の家
- House F, nagamine
- 湯浦温泉センター
- MA-HOUSE
- 供養普請の家(佐藤忠商店)
- 古代の風 黒の蔵-多良木町埋蔵文化財等センター
- 熊本市西区役所
- 旅館 心乃間間

第21回 2015年度

- Leeこどもクリニック
- 千丁の家
- 京町の家
- T.house in 武蔵塚
- 33' 46' 48"
- 玉東町の家
- 第一幼稚園
- 南阿蘇の小さな診療所
- 葉味筆筒の家

第22回 2017年度

- わかたけ保育園
- 再春館製薬所体育館スクラリーナ
- SA-HOUSE
- GALLERY FLOWER GARDEN
- 熊本県民テレビ新社屋

第23回 2018年度

- 錦ヶ丘の家
- 合志マンガミュージアム
- 川尻の町家
- MU-HOUSE
- 尚綱大学短期大学部附属こども園
- 園田教材社
- 町営住宅倉原団地

第24回 2019年度

- 川尻公会堂
- Y-HOUSE
- 地獄温泉青風荘,すずめの湯
- 地の舎
- 南阿蘇村買取型災害公営住宅馬立団地
- オモケンパーク
- 西原村買取型災害公営住宅山西団地
- にしまつみ基地ミュージアム(錦町立人吉海軍航空基地資料館)
- 滝尾幼稚園
- いてた平成眼科クリニック

第25回 2021年度

- 下江津の家
- そらいろ保育園
- PLAY FARM・ツリーハウス
- HIKE(ハイク)
- 八代市民俗伝統芸能伝承館(お祭りてんでん館)
- 益城町の事務所
- 切妻と土間の家
- 松橋の家
- 南阿蘇村買取型災害公営住宅 長陽西部団地・下西原第2団地
- 地獄温泉 清風荘

第26回 2022年度

- 村川造園自宅
- N-HOUSE
- 神水公衆浴場
- 床と大地の余地
- ケアポート益城
- 上乃裏通りのビルディング+
- 線景の家
- 南関町庁舎
- 岱明の家
- かえでの森こども園

第27回 2023年度

- 商工クラブ葛籠(料理谷邸)
- 熊本県フットボールセンターCOSMOS
- 江津ハウス
- 本山の自邸
- 芳野旅館
- 布田・龍王社
- 北岡神社(舞殿・授与所兼神輿庫・八坂神社通拝所)
- 屋根下のサロン

第28回 2024年度

- 東海大学阿蘇くまもと臨空キャンパス
- 箱の家163 (Y邸)
- 立野交流施設(立野駅)
- 熊本保健科学大学 レストラン ピリア
- 酒蔵の片隅で角打ち
- 垂玉温泉 瀧日角
- 天然記念物布田川断層帯(谷川地区)見学施設

第28回令和6年度(2024年度)くまもとアートポリス推進賞募集要項

趣 旨

熊本県は、環境デザインに対する関心を高め、都市文化並びに建築文化の向上を図るとともに、文化の情報発信としての熊本を目指して、優秀な建築家やデザイナーの才能・アイデアを集結し、機能面はもとよりデザイン面にも優れた、後世に残る文化的資産を創造するため、「くまもとアートポリス」を推進しています。

その一環として、「くまもとアートポリス推進賞」では、建築文化に対する関心を高めるため、平成7年(1995年)から県内各地の優れた建造物等を表彰しています。

表彰対象

概ね5年以内に竣工(改造・改修・修復を含む。)した熊本県内の建築物、橋、公園、記念碑等の建造物及びそれらで構成された一群の施設等(くまもとアートポリス参加プロジェクト及び県の施設を除く。)とします。

選考基準

本賞の選考は、建造物等の企画、設計、施工及び施設の利用について、次に示す評価のポイントをもとに総合的に評価します。

評価のポイント

- | | |
|--------------------------------|---------------------------|
| ① ②~⑥の評価ポイントがデザインに反映され、優れているもの | ⑤ 地域づくりに寄与しているもの |
| ② 新しい技術的提案や工法の改善が行われているもの | ⑥ 長いスパンのライフサイクルに配慮されているもの |
| ③ ひとや環境に優れた配慮がなされているもの | ⑦ 良好な施工が行われているもの |
| ④ 施設の活用に創意工夫がみられるもの | ⑧ 維持・管理が良好なもの |

賞

賞は「くまもとアートポリス推進賞」、「くまもとアートポリス推進賞選賞」とします。事業主(必要に応じて管理者を含む。)、設計者及び施工者を知事が表彰します。

選考基準

自薦、他薦を問わず、どなたでも応募できます。

選考委員(50音順)

青木 淳 / AS共同主宰

伊東 龍一 / 熊本大学名誉教授

乾 久美子 / 横浜国立大学大学院Y-GSA教授、乾久美子建築設計事務所主宰

坂口美由紀 / Comodo arts project代表

富田 一哉 / 熊本日日新聞社編集局文化部長

中川エリカ / 中川エリカ建築設計事務所主宰

選考経過

募 集 令和6年(2024年)5月1日(水)~7月1日(月) 応募29件

書類選考 7月23日(火)

現地審査 9月5日(木)~6日(金)

最終選考 9月6日(金) 推進賞3件、推進賞選賞4件

表彰式 令和7年(2025年)1月23日(木)